

報道発表資料  
平成 22 年 4 月 8 日  
気象庁地球環境・海洋部

## 観測船「凌風丸」による海洋観測の一部欠測について

気象庁所属海洋気象観測船「凌風丸」は、平成 21 年秋季航海（9 月 16 日～11 月 11 日）及び平成 22 年冬季航海（1 月 14 日～2 月 3 日）において、水温・塩分、海潮流、洋上大気及び表面海水中の二酸化炭素、並びに海水中の全炭酸、アルカリ度をはじめとする二酸化炭素関連物質等の海洋観測を実施しました。

このうち、洋上大気及び表面海水中の二酸化炭素については、観測装置の不具合により、正常なデータが取得できませんでした。

このため、表面海水中の二酸化炭素については、全炭酸やアルカリ度等の他の観測項目により間接的に推定が可能なことから、代替データを作成する予定です。なお、これらの代替データについては、気象庁ホームページ「海洋の健康診断表・二酸化炭素濃度の長期変化傾向」において、本年 6 月に公表する予定です。

観測装置の不具合は配管継手の緩みに起因していましたが、緩みの原因については現在調査中です。

今後は、機器点検の的確な実施を徹底し、あわせてデータのチェック体制を強化することで、再発防止に努めてまいります。

本件問い合わせ先：気象庁地球環境・海洋部海洋気象課  
03-3212-8341（内線 5133）

## 凌風丸平成 21 年秋季及び 22 年冬季観測航海概要

目的 気候変動に関連する海洋変動の実態把握と機構解明  
海洋における温室効果ガスの実況監視と循環機構の解明  
廃油・重金属などによる海洋汚染の実態把握

期間 秋季：平成 21 年 9 月 16 日～11 月 11 日  
(137°E 定線\*の観測期間は 10 月 23 日～11 月 11 日)  
冬季：平成 22 年 1 月 14 日～2 月 3 日

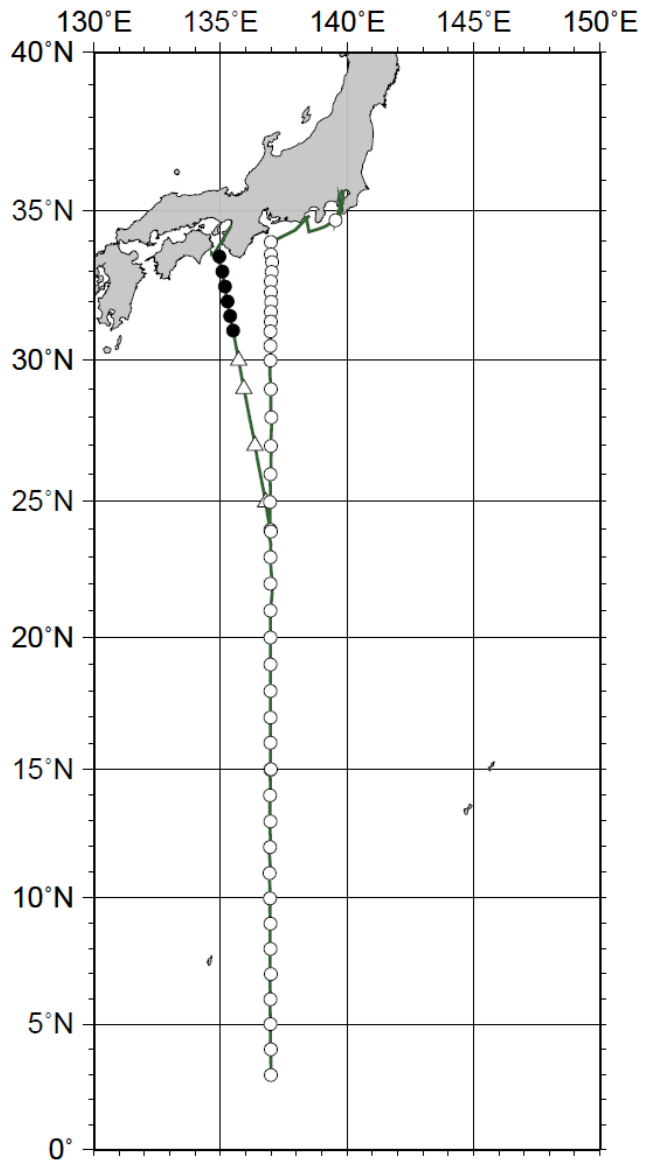
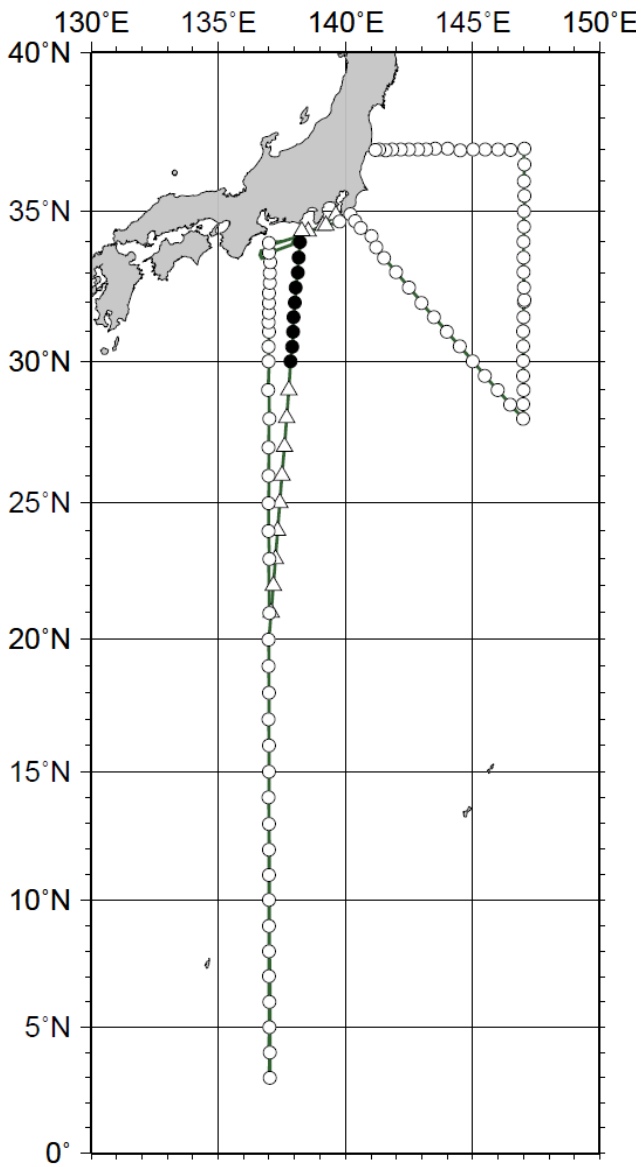
- 各層観測（測点で鉛直方向に連続あるいは基準層で採水・分析）
  - ・水温、塩分
  - ・溶存酸素
  - ・栄養塩（リン酸塩、ケイ酸塩、硝酸塩、亜硝酸塩）
  - ・植物色素（クロロフィル a、フェオフィチン）
  - ・全炭酸
  - ・アルカリ度、水素イオン濃度（pH）（冬季航海のみ観測）
- 表層水温観測（表層 750m までの水温連続観測）
- 海潮流観測
- 海洋バックグラウンド観測
  - ・洋上大気及び表層海水中の二酸化炭素（航走中連続）〈今回欠測〉
  - ・洋上大気中のメタン（同）
  - ・油膜及び浮遊物質（船橋からの目視観測）
  - ・海面の油膜（同）
  - ・油分（表面海水の分析）
  - ・重金属（表面及び 1000m 深海水の分析）

\*137°E 定線—気象庁が 1967 年冬季から定期的に海洋観測を実施し、二酸化炭素観測についても 1984 年から継続して実施している。

凌風丸 海洋観測図

平成 21 年秋季航海

平成 22 年冬季航海



- 各層観測
- 表層水温観測
- △ 海潮流観測
- 二酸化炭素観測（航行中連続）

- 各層観測
- 表層水温観測
- △ 海潮流観測
- 二酸化炭素観測（航行中連続）